

養殖マガキ大量へい死の発生状況等の調査、 原因究明と対策にかかる緊急研究

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 持田和彦

2 研究期間：令和7年度～令和8年度（2年間）

3 研究目的

養殖マガキ大量へい死対策に資する科学的基盤を構築するとともに、2025年に発生した大量へい死の原因を特定する。さらに、へい死回避のための生産管理マニュアルを作成する。

4 研究内容及び実施体制

① 大量へい死の発生要因の検証

マガキへい死状況と海洋環境データの照合および学術情報の網羅的解析により、へい死要因を特定し、へい死対策を提示する。

（国立研究開発法人 水産研究・教育機構）

② 現場試験・調査によるへい死機構の解明

マガキの垂下飼育試験を実施し、へい死時期・規模に影響する要因を解明するとともに、生理・病態学的解析からへい死機構を推定する。

（国立研究開発法人 水産研究・教育機構、広島県立総合技術研究所）

5 最終目標

①科学的な養殖マガキ大量へい死発生機構の解明を行う。

②2025年秋季大量へい死の発生要因を特定する。

③へい死回避のための生産マニュアルを作成する。

6 期待される効果・貢献

本研究の成果を足掛かりとして養殖マガキへい死の対策技術が確立され、マガキ養殖の安定生産に貢献する。また、科学的根拠に基づく生産管理マニュアルの整備・普及に繋がる。

研究の目的(背景)

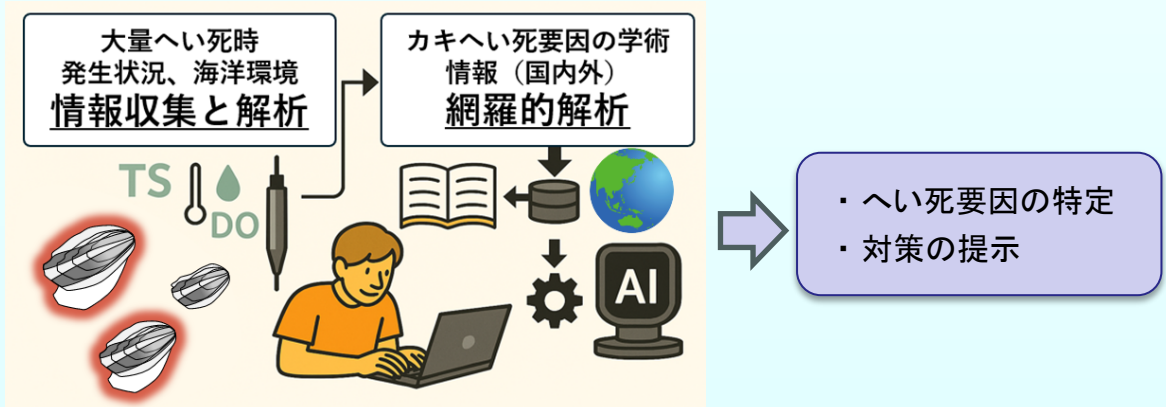
2025年秋季、瀬戸内海広域で養殖マガキの大量へい死が発生した。要因として高水温などが疑われるが、未特定である。このため、へい死の発生要因解明と対策技術の整備が急務となっている。

2025秋、瀬戸内海広域で養殖マガキ大量へい死

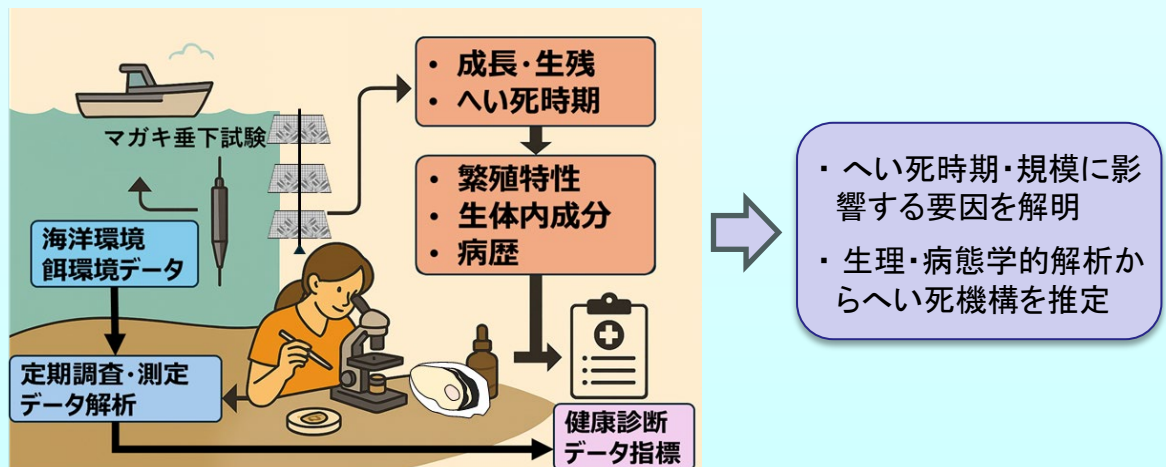


研究内容

1. 大量へい死の発生要因の検証



2. 現場試験・調査によるへい死機構の解明



達成目標

- ・科学的なへい死発生機構の解明
- ・2025年大量へい死原因の特定
- ・へい死回避のための生産管理マニュアルの作成

期待される成果

- ・マガキへい死の対策技術が確立され、安定生産に貢献
- ・科学的根拠に基づく生産管理マニュアルの整備・普及